

# 山東人と日本人はよく似ている 済南を広い中国の窓にしたい

## 石 冰

Shi Bing

中国・山東大学ソフトウェア学院  
副院長 教授

コンピュータ科学で世界の上位1%に位置するといわれる山東大学で、コンピュータ教育の黎明期から第一人者として活躍してこられたのが石冰先生だ。2003年には「山東省大学生ソフトウェア設計コンテスト」を始められた。15年目を迎える今年は、70校、6000人の学生が参加する大会に成長した。日中の学生の交流をはかり、お互いの人材育成をしたいといわれる。また、日本の学生が中国でインターンシップを経験できる場をつくりたいとも。山東省を中国の窓として、ぜひ、実現していきたい。

(本紙主幹・奥田喜久男)



### プログラミングコンテストを通じて 日中の学生交流を深めたい

奥田 「山東省大学生ソフトウェア設計コンテスト」を、今後どのように発展させていきたいとお考えですか。

石 これまで15年続けてきましたが、15年後も同じように続けていきたいと思います。例えば、日中の学生交流をしたらどうでしょう。両国の大学生がコンテストを通じて連携し、5年、10年、20年と年を重ねるごとに日中の国、個人、ビジネスの面で大きな成果が出せるのではないのでしょうか。両国の人材育成のいい面をお互いに取り入れて、お互いが人材を育成していったらどうでしょう。

奥田 同感です。その第一歩として、山東省には済南市があり、山東大学があり、ソフトウェア学院があり、それをかたちづくってこられた石先生がいらっしゃる。こうしたことを日本人に伝えていきます。石先生のようなリーダーにはとても大きな影響力があります。その一人のリーダーの姿を

日本のIT業界の人々に伝えていきます。

石 もう一つ夢があります。日本の学生が中国でインターンシップを経験できるセンターをつくりたいのです。山東大学に日本の学生を招いて、中国の学生とともに3か月、6か月と同じ釜の飯を食べ、同じところに寝泊まりし、同じ学校で一緒にプロジェクトに取り組む環境をつくりたいのです。

奥田 すばらしいですね。ただ、日本人はビールで有名な青島は知っていますが、済南を知らない人が多い。まずは済南、山東大学、石先生のことを伝えるところから始めます。

### 米国で開催される ACM-ICPCの決勝大会にも出場

奥田 プログラミングの世界大会のようなものはあるのでしょうか。

石 山東大学は、ACM-ICPC(国際大学対抗プログラミングコンテスト)の決勝大会に進出する目的で、中国の情報五輪コンテストに参加しています。

各省で選抜して、中国の代表を決め、アジア大会を経て米国で決勝が行われます。

奥田 山東大学のこれまでの成績はどうでしたか。

石 米国で開催される決勝に2回進みました。世界でおよそ150チームが参加するのですが、最初に決勝進出したのが08年で47位、次が11年で等外という成績でした。

奥田 中国のなかで、済南の子どもたちのプログラミング能力はどれくらいなのでしょう。

石 山東省の高校生のレベルを考えると、子どもたちの点数は全国でもトップレベルです。人数も大勢います。

奥田 優秀な子どもたちを育てるには、優秀な教育者が欠かせません。

石 その通りですね。最も必要なのは、社会の需要です。例えば、中国の宇宙開発のスピードは非常に速い。そこでは人材教育プラットフォームの質がとても高く、そのなかから優秀な教育者も生まれてきます。どんなチームにするかも重要です。社会の要望に合わせてチームをつくって優秀な教

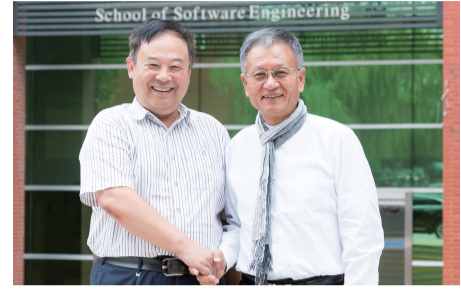


**PROFILE** 1957年8月、中国・山東省臨沂市生まれ。現山東大学コンピュータ科卒業。1989年、山東工業大学コンピュータ応用科修士学位取得。2006年3月、山東大学ソフトウェア学院副院長。専門はデータウェアハウスとデータマイニング、Web情報処理。

構成・文／道越一郎  
text by Ichiro Michikoshi

撮影／長谷川博一  
photo by Hirokazu Hasegawa

2017.8.23 / 中国・山東省済南市の山東大学ソフトウェア学院にて



**こぼれ話**

お酒にはお国柄がある。日本は日本酒。ドイツはビール。読者の皆さんも異論はないであろう。では中国は何か。日本人の多くは「紹興酒」と答えるのではないか。私も足しげく中国に出向くまではそう思っていた。青島ビールを生産している山東省では「白酒」なのだ。

山東省の済南に通い始めて友人ができると、必ず宴席に誘われる。どのお店に入っても丸いテーブルがある。そこで質問。上座に座る人は誰か？ 日本は招待された人である。中国は招待した本人である。「えっ、本当」と驚いてしまう。

こうした決まりはそれぞれの国にあらう。山東省の宴会の進行にも、飲み方にも決まりがあって、山東人の友人たちはその行儀作法を厳格に守っている節がある。宴の開始、自己紹介を兼ねたスピーチ、乾杯相手を指名して白酒を一気飲みして盛り上がる。前後不覚になって天使の気分で舞い上がり、その後は奈落の底に転げおちるという格闘技のような宴なのだ。

宴は年齢を越えて一体感を醸し出す。60度の酒を煽り続けるのだから、訳もわからなくなる。宴は偶然に盛り上がるわけではない。リーダーの存在が宴の“質”を高めて行く。すぐれた人材はすぐれた教育者のもとで育つが如しである。布袋様に似た石氷先生が宴のリーダーとなると、まさに水を得た魚のように、宴は盛り上がり、たけなわとなり、白酒の空ボトルがずらりと並ぶ。この痺れるような体験をしたい方は済南にご一緒しましょう。

プログラミングと宴の相関関係について今回は石先生と議論してみたい。

育者を養成していくわけです。また、中国で博士号を取得して、研究のため日本に留学して、中国で優秀な教育者として活躍している人もいます。こうした環境も大事です。優秀な教育者を育成するには、適した環境に早く身を置くことで、早く成長していくことができるわけです。

奥田 「孟母三遷の教え」ということですね。

**山東省、済南を中国の窓として 若者交流の環境をつくる**

奥田 山東省には石先生というすばらしい先生がいらっしゃるということを実感しました。ソフトウェア教育に熱心で実績も上げておられる石先生が、人物を育てるという意味で重視されているのはどんな点ですか。

石 山東大学では教育に重視している点が二つあります。一つは「忠誠心」。基礎教育を通じて、国や会社、友達に対する忠誠心を重んじるように教えます。もう一つは「やり遂げる」ということを重

要視しています。そのおかげで、山東省の大学の卒業生は転職率が低いんです。山東省の人と日本人はよく似ているように思います。どこか日本の社会にも似ていますよね。

奥田 済南と日本はとても似ているんですね。私にとっての中国は、まず、750万人の済南、950万人の山東省です。私は中国人と中国の歴史が好きです。日本の若者たちも、一度中国に来れば中国が好きになるでしょう。まず山東省に日本の若者を連れてきたい。いま、その方法を考えています。広い中国のどこの都市に行くかによっても印象はまったく違います。まず、山東省、済南を、日本人にとっての中国の窓にしたいんです。

石 一緒にできる環境を一番いい方法でつくることですね。山東省がわからなければ、中国を理解できないと思います。お互いに理解できる環境をつくるのが大事です。

奥田 プログラミング言語という共通語を介して、日本と済南の若者が交流する環境をぜひ一緒に作りましょう。本日はありがとうございました。📌

BCNは「ものづくりの環」を支え 育むメディア企業です



——「ものづくりの環」の詩——

ものを使う人がいます  
ものを売る人がいます  
ものをつくる人がいます

いつの時代も私たちは生活の心地よさを求めます  
その意(おもい)が新しいものを生み出す

使う人、売る人、つくる人——  
私たちは「ものづくりの環」のなかで  
すべての人の心が豊かになることを願っています

株式会社 BCN

<http://www.bcn.co.jp/>

※この記事は、近く週刊BCN+の「千人回峰 人ありて我あり」で公開する予定です。  
<https://www.weeklybcn.com/journal/hitoarite/>

“千人回峰”这个题目是我从“千日回峰行”拜借来的。“千日回峰行”是日本僧侣每天绕比睿山巡拜，经一千天后大彻大悟、结愿的天台宗的苦修行。而我希望与一千位人士相见，去感受、触碰各位的哲学·行动的深渊，所以一直在持续着这个连载。

# 山东人和日本人很像 期待济南能成为辽阔中国的窗口

## 石冰

Shi Bing

中国山东大学齐鲁软件学院  
副院长 教授

山东大学在计算机科学领域处于世界前沿1%的位置，而石冰老师是山东大学从黎明期开始就活跃在计算机教育一线的领军人物。2003年创办“山东省大学生软件设计大赛”，今年已是第15届，成为有70所大学、6000多人参加的盛会。石老师很重视中日学生的交流，希望以此为契机推动中日两国人才培养事业的发展。他还表示，在条件成熟时，要给日本学生在山东省搭建一个实地体验的中国平台，使山东省成为中国的对外窗口。  
(本版主编·奥田喜久男)



### 希望通过举办程序设计大赛， 加深中日两国学生的交流

奥田 请您谈一谈今后如何进一步发展“山东省大学生软件设计大赛”？

石 迄今为止，大赛已经举办了15届，希望今后15年也能同样顺利地进行。另外，可以考虑引入中日学生交流的机制，通过大赛加强两国大学生的交往。相信5年、10年、20年后，随着时间的推移，这些学生一定会在个人和商务两个层面的两国交流中发挥积极的促进作用。中日间相互学习和吸收人才培养方面的好经验，推动双方人才事业的培养，不是一件很好的事情吗？

奥田 完全赞成您的观点。第一步，我们想把山东省、济南市、山东大学、齐鲁软件学院，还有为建设齐鲁软件学院作出卓越贡献的您介绍给日本。像石老师这样的领军人物，影响力是巨大的，我们要把您

的事迹传达给日本IT行业的人们。

石 我还有一件事很想做，就是设立一个日本大学生的中国体验中心。可以每年邀请一些日本大学生到山东大学，和中国的大学生们在一起生活三个月或半年，同吃，同住，在同一所大学里共同参与项目开发。

奥田 这个计划太好了。不过，很多日本人知道青岛啤酒，知道青岛，但知道济南的人却很少。因此，首先要从推介济南、山东大学和石老师开始。

### 参加了在美国举行的ACM-ICPC 决赛

奥田 有没有编程的世界大赛？

石 山东大学为取得ACM-ICPC（国际大学生程序设计竞赛）决赛资格，参加了中国的信息奥林匹克竞赛。它是由各省先选拔出优胜队伍，最后决出代表中国参赛的队伍，通过亚洲区的比赛，最终才能参

加在美国举办的决赛。

奥田 山东大学的成绩如何？

石 山东大学到美国参加过两次决赛。来自世界各地的约150个队伍参赛，08年第一次参赛时获得第47名，11年没能入围。

奥田 放眼中国国内，济南的孩子们程序设计能力处在一个怎样的水平？

石 从山东省高中生的水平来看，孩子们的得分处在全国领先地位。而且人数上也占有优势。

奥田 要想培养出优秀的青少年，首先要有优秀的教育工作者。

石 确实如此。要注意把握社会需求，这一点至关重要。比如，中国的航天事业发展迅速，航天领域有着高质量的人才教育平台，从那里也诞生了不少优秀的教育工作者。建设一支怎样的师资队伍也很重要。要根据社会的需要组建和发展教育队伍，培养优秀的教育工作者。此外，也有一部分人是在中国获得博士学位后，到日本留学开展研究后再回

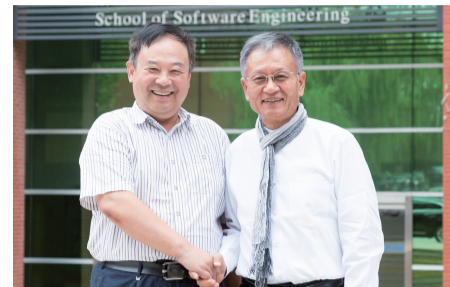


**PROFILE** 1957年8月，生于中国山东省临沂市。毕业于山东工业大学（现山东大学）计算机专业，1989年研究生毕业于山东工业大学，获硕士学位。2006年3月就任山东大学齐鲁软件学院副院长。主要研究方向是数据仓库与数据挖掘、Web信息处理。

构成・撰文：道越一郎  
text by Ichiro Michikoshi

摄影：长谷川博一  
photo by Hirokazu Hasegawa

2017年8月23日于中国山东省济南市山东大学齐鲁软件学院



**余闻**

酒蕴含着一个国家的性格。代表日本的酒是日本酒，代表德国的是啤酒，各位读者没有异议吧。那么，代表中国的酒是什么呢？相当一部分日本人会回答“绍兴酒”，在来中国以前我也是这样认为的。但事实上，以青岛啤酒著称的山东省的代表酒却是“白酒”。

我经常到访山东省济南市，结交了一些朋友，受邀参加酒宴的机会也多了起来。一般的中餐馆里都放有圆桌。在这里提个问题：请问在上座位置的人是谁呢？在日本应该被邀请的客人，而在中国恰巧相反，是请客者本人。知道答案的你会不会一脸诧异：“这是真的吗？”

不同的国家有不同的规则。山东省的酒宴流程和饮酒方式也有自己的规则，山东的朋友们都很注意遵守这些礼仪、礼节。宴会开始后，先做个自我介绍，发表一些感想，然后指定一位干杯对象，一口喝尽杯中的酒。如此这般，一番碰杯，几巡过后，你就会变得飘飘然不知所以。再往后就会沦为东倒西歪、犹如闯进格斗场的困兽一般。

通过参加酒宴，可以不分年龄建立起一体感。在轮番劝酒的攻势下，连续吞下高达60度的酒，不倒下才怪！宴会的高涨气氛并不是偶然酿成的，带头人的存在会使宴会的“质量”大为提升。这与优秀人才需要优秀教育工作者培育的道理是完全相同的。石冰老师长得很像古代的布袋和尚，只要是他担任起酒宴的带头人，那真是如鱼得水，酒宴定会高潮迭起，一瓶瓶白酒不一会儿就被席卷而空。想体验这种令人陶醉和麻木的酒宴吗？请跟我一起到济南来！

期待下次能和石冰老师一起讨论程序设计和酒宴之间的关系。

到国内，成为了优秀的教育工作者。可见一个很好的环境非常重要。要培养优秀的教育工作者，通过尽早使其置身于一个合适的发展环境中，自然也是能迅速成长起来。

奥田 所谓“孟母三迁”的道理就在于此啊。

## 把山东省济南市作为中国的对外窗口，努力创造有利于青年人交流的环境

奥田 我深感山东省有石老师这样优秀的老师实在是太好了。您一直以来热心于从事软件教育工作，并为此作出了卓越贡献。在人才培养上应该重视哪些方面？

石 山东大学在育人上重视两点。首先是“忠诚心”。在基础教育中，教育学生对国家、对公司、对朋友要有忠诚心。再一个就是要让学生们建立起“干到底”的信念。山东省大学毕业生的跳槽率是比较低

的。在这一点上，山东人和日本人很像，与日本的社会也有一些相似之处。

奥田 我也觉得济南和日本有许多相似之处。在我的概念中，中国就是750万人的济南和9500万人的山东省。我喜欢中国人和中国历史。我相信，日本的年轻人只要来过中国，都会喜欢上中国。首先，我想推荐日本年轻人到山东省看看，我正在思考具体办法。中国幅员辽阔，根据第一个造访中国的城市的不同，对中国的印象也会迥异。我希望把山东省和济南市作为中国的窗口介绍给日本。

石 让我们共同努力，寻求一个双方都能做得到的具体办法，并进一步落实。我认为不了解山东，就不能很好地了解中国。营造一个双方都能理解的环境尤为重要。

奥田 让我们携起手来，以程序设计语言为共通语言，尽快创造出让日本年轻人和济南年轻人相互交流的平台。百忙之中抽出时间接受采访，非常感谢！



BCN是有力支撑、孕育“造物之环”的传媒企业



——“造物之环”之诗——

社会生产生活中：  
有使用者  
有销售者  
有制造者

无论在哪个年代，我们总是向往美好舒适的生活  
这份向往的意念激发我们去创造新的事物

使用者、销售者、制造者——  
我们在这“造物之环”中  
祈愿所有人的内心都变得富裕而充实

株式会社 BCN

<http://www.bcn.co.jp/>

※该文章，预定近期会在“週刊BCN+”网站“千人回峰 人ありて我あり”一栏公开刊登。  
<https://www.weeklybcn.com/journal/hitoarite/>